

(別紙様式)

# 令和 3 年度 学校自己評価システムシート ( 県立入間向陽高等学校 )

( A 3 判横 )

目指す学校像	「ひたむきに、おおらかに、たくましく」未来を生き抜く心身ともに健全な若人の育成
重点目標	1 授業改善及び学習習慣の確立を通じた学習意欲の向上 2 行事等の実践を通じた主権者意識の育成及び自律的・基本的生活習慣の確立 3 生徒一人一人に即した進路選択とその実現 4 保護者参加と中学校・地域との連携強化による協力支援体制の確立

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 ( 8 割 以上 )
	B	概ね達成 ( 6 割 以上 )
	C	変化の兆し ( 4 割 以上 )
	D	不十分 ( 4 割 未 満 )

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 5 名 生徒名 3 6 名 事務局 (教職員 7 名)
-----	---

学 校 自 己 評 価				年度評価 ( 1 月 1 3 日 現在)		学校関係者評価		
年度	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒達の授業態度は大変落ち着いており、大部分の生徒が集中して取り組んでいる。生徒達は、わかりやすい授業と興味を強く引く授業を望んでおり、教職員には、これらの現状や要望を踏まえ、生徒が意欲的・主体的に参加できる授業作りと工夫が望まれる。また、大学進学をはじめとする生徒の多様な進路希望を念頭に置き、それらの土台となる基礎的な知識や思考力、自ら課題を発見し解決する能力を養成していくことが必要である。</li> <li>定期考査前の学習には、大半の生徒がよく取り組んでいるが、予習復習等の日常的な学習習慣が身につけられていない生徒も多い。現状を踏まえ、教職員は、引き続き生徒の学習習慣確立のための方策を模索し、実行していく必要がある。</li> <li>生徒の進路意識は、高まりつつある。特に、科目選択については、将来の進路希望と結び付けながら、学習意欲の向上につなげていくことが大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的・基本的事項を重視し深い学びを促す授業改善の取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートの結果を踏まえ、より一層興味関心を引き出す授業を創意工夫する。また、生徒達が自ら考え、対話的で深い学びを目指すとともに、課題解決能力が身につく授業を模索していく。</li> <li>引き続き「初期学習指導」を実施し、各教科の学習方法を具体的に説明する。授業での課題の提示と評価、生徒自身による定期考査の振り返り等を行い、自己課題の発見を促す。学校全体で生徒達の日常的な家庭学習の習慣化を、ICTの活用も取り入れて進めていく。</li> <li>科目選択に関して生徒達が自らの将来の進路と結び付けられるように科目選択ガイダンスを行う。進路分野別ガイダンス・進路HRなど進路指導部と連携して動機付けを大切に、生徒の学習意欲向上につなげていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートの分析によって生徒達の実情を把握し、授業改善への課題を明確にして、主体的・対話的で深い学びを目指した様々な創意工夫と実践に取り組むことができた。</li> <li>「初期学習指導」により、学習への動機付けができた。また、課題や定期考査等の評価と生徒自身による学習の振り返りにより、日常的な家庭学習の習慣化を進めることができた。</li> <li>科目選択にあたり、生徒達が自分の将来の進路を自覚しながら学習意欲を高めていけるような適切な情報提供と指導を行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートの結果より、例年と変わらず授業への満足度が高い事がわかった。分散登校になった際には課題提示や授業動画の配信が行われ、生徒の学習意欲を落とさないようにした。状況に応じて、各教員による授業改善や生徒参加型の授業実践が積極的に行われている。</li> <li>今年度は「初期学習指導」を行うことができたため、例年と同様に各科目で学習への動機付けが適切に行われた。生徒は授業を大切にしており、定期考査の振り返りや予習復習への取り組みも前向きな傾向にある。</li> <li>1, 2年生に対する科目選択ガイダンス等により、多くの生徒が自分の進路を意識しながら学習に取り組んでいる。昨年度は動画配信であったが、今年度は選択科目のガイダンスを実施できた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の意欲・実態を把握しながら生徒の主体的な授業参加と学習習慣の確立に向けて一層の授業改善の努力が望まれる。生徒参加型の授業を模索しながら、自らの課題を発見していけるような学習の振り返りや、進路実現する上での知識と学力を養成していくことが重要な課題である。次年度は新課程、観点別評価が導入される。生徒の実情を見ながら、スムーズな移行を目指す。</li> <li>「初期学習指導」は、1学年だけではなく、学年を追って発展的に実施されることが望ましい。生徒の学習習慣の確立のためには、地道で継続的な取り組みが必要である。生徒の自己評価の視点を入れながら、授業改善に反映していくことが重要である。</li> <li>引き続き進路指導部とタイアップしながら、科目選択ガイダンス等を通じて進路意識と学習意欲を結びつけていくような指導が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校関係者からの意見・要望・評価等</li> <li>学習習慣を定着させるためには、まず自分がやりたいこと、興味があるものから自分の将来象を想像し、目標を見つけている必要がある。しかし、自分がやりたいための広い学習が必要となる。初期学習指導で「何故、勉強するのか」という動機付けから考えることも必要ではないか。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶・礼儀など基本的生活習慣が身につけている生徒が多く、落ち着いた学校生活を送っており、近隣からの評判も良い。</li> <li>SNSの使用について、研修会等を実施することで問題の拡大を防止できているが、スマホ使用のマナーを含め、引き続き理解を深め、トラブル防止に取り組んでいく必要がある。</li> <li>生徒アンケートの結果から、生徒の行事への期待は高い状態を維持している。コロナ禍の困難な状況であるが、中央委員会等の委員会が生徒会本部と連携して活動の幅を広げてきた。行事をさらに発展させるために、諸行事の原案作りにおいて、各生徒が目的や意義を再認識し、生徒会本部とHRとの結びつきを意識した企画づくりを深めていくことを通じて、「参加」から「参画」へと発展させていく工夫を継続していく必要がある。</li> <li>食堂と生徒間での会議を適宜設け、生徒の要望を反映させる活動を継続できている。生徒アンケートの結果の分析をもとに、生活環境の向上に向けた議論を行う中で、主権者意識を引き続き育成していく必要がある。</li> <li>部活動は全体的に盛んであるが、加入状況の維持が課題となっている。活動の活性化と加入率の向上に向けて、生徒会組織の横のつながりと、環境の整備に取り組んでいく必要がある。</li> <li>入間向陽高校をよくする会で生徒が意見表明を行い、各HR代表やPTA、学校評議員と意見交換を行うことで自ら行ってきたことを振り返り、課題発見を積み重ねることができてきた。昨年度は、前例のないコロナ禍で学校生活が大きく制約される中で、学校の行事の在り方について意見交換を行った。そのことが生徒会活動が単なる行事の実施ではなく、生徒会活動の在り方を探求することに繋がり、生徒会活動の質を高めることにつながった。引き続き、HR討議を踏まえ取組みを全校に広げること、そして主権者意識を育てていくことに繋げることが課題である。</li> <li>修学旅行は、コロナ感染防止対策を徹底し、日程を1日縮減して沖縄修学旅行を実施した。事前学習で教科横断的に沖縄をテーマに戦争と平和、歴史と文化などの学習に取組み当日の平和学習、文化体験等に活かすことができた。また、人権学習では、学年ごとにテーマを設定し、教科を横断して学習を深めることができた。修学旅行の事前学習や人権教育での各教科を横断した取組は、効果が大きいと見られ、引き続き、学年、委員会、教科で連携・協力を大切にしていくことが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人一人の個性に即し、人間として望ましい資質の伸長を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員間の共通理解と協力体制の確立(特に整容指導・挨拶励行、時間厳守について)</li> <li>朝の登校指導、授業開始時の巡回の継続</li> <li>定期的な整容指導の実施</li> <li>社会生活におけるマナー向上指導の一つとして情報モラル研修会・非行防止研修会を企画し、自己の課題として考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共通理解と協力体制ができた。</li> <li>登校指導、巡回指導が継続的に実施できた。</li> <li>教員の共通理解のもと、整容指導を適切に行うことができた。</li> <li>自己の課題として考えさせる研修会が効果的に実施できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の情報を全体で共有するようにつとめ、生徒指導部・担任の連携を深めた。</li> <li>日々の校門指導、授業開始時の巡回指導は今年度も全教員の協力を得て継続することができた。</li> <li>各学期のはじめに、学年ごとに整容指導をおこなった。来年度から女子のストッキング導入を決定した。</li> <li>情報モラル講習会は、昨年度に継続してコミュニケーションにこだわって行った。日頃のクラスメイトとの交流のあり方考える契機になった。また、非行防止教室は、スマホ、ゲーム等の「依存」に焦点を当て、日頃的生活習慣に目を向けられるように心がけた。1月実施の「向陽高校をよくする会」での意見交換を通じて生徒会からも自身の生活習慣の問題として投げかけ、日頃の行動の見直しを促すようにしていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>落ち着いた教育環境を維持するために全教員の協力体制を維持していくことが重要である。</li> <li>あいさつの励行等、社会生活におけるマナー向上を図る指導を継続させていくことが重要である。新ストッキング導入に伴い、規定等の見直しが必要になる。</li> <li>SNS関連の問題は、今までの指導を見直しながらあらゆる場面で引き続き指導していく必要はない。</li> <li>非行防止の観点も踏まえ、交通ルールや公共の場でのマナーを中心に自ら主体的に変えていけるような働きかけを検討する必要がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>女子へのストッキング導入等の制服の選択化についての説明が在校生にも欲しい。近年社会で話題になっているLGBTQ+への対応もあるが、制服の選択問題と分けて考えることが必要でLGBTQ+への対応は、本人を苦しめない対応を原則とすべき。金銭面から制服のリユースについても検討して欲しい。</li> </ul>	
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の進路希望は多様である。計画的に進路決定することができるように、進路指導の工夫が必要である。</li> <li>希望する進路を実現するためには受験に耐える教養と学力が不可欠である。また受験環境も変化しており、生徒の実状に応じた対策が必要である。</li> <li>スマートフォンの普及により進路情報は身近になったが、不適切な情報も多い。適切な情報を生徒・保護者・教職員で共有していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人一人を大切に、その進路実現を支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>適性検査・職業人講話を通して社会性を培い、自己の在り方生き方を考えながら、自己理解と職業意識を育み、進路選択の課題を発見するための動機付けを推進する。また各ガイダンスや上級学校による模擬授業を通して計画的に進路分野を選択させる。</li> <li>授業を基本とし、向陽ゼミ(補習)や模試、GTECアセスメント版を実施して学力の向上を図る。自習室は記名方法を簡略化し利用のハードルを下げる。推薦受験対策として、小論文や面接練習に積極的に取り組むように指導する。</li> <li>「進路だより」や「ホームページ」、「保護者向けの進路ガイダンス」を通して、進路情報を発信していく。また、進路室の利用を促進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が自分の将来について考え、職業・上級学校についての必要な知識を得た。これまで考慮してこなかった職業についても興味を持つことができた。</li> <li>生徒が自主的・主体的に学習に取り組む、受験に必要な学力を身につけるように指導することに寄与することができた。</li> <li>適切な進路情報を生徒・保護者・教職員と共有することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>適性検査・職業人講話を中心に、職業理解を促す指導を行った。1学期の自己理解を踏まえ、職業に関する知見を広げることで選択肢を増加させることができた。これまで考慮してこなかった職業についても興味を持つことができた。進路の当日も良い経験とすることができた。上級学校研究に関しては、進学フェアの実施に変更した。3校開き比べことで志望校を決める軸を考えたことに繋がった。進路先の決め方を具体的にイメージさせることができた。</li> <li>向陽ゼミを通年制から学期制に変更した。教員側の自由度が高く、学期ごとにターゲットにした生徒と内容を絞れた。推薦受験対策として、希望者向け小論文対策講座を複数回実施した。</li> <li>「進路だより」を7号(12月時点)発行し、同時にホームページにアップした。「保護者向けの進路ガイダンス」は、1, 2学年で実施した。進路室を整理整頓し、赤本や書類を設置するなど、生徒の利便性を高めた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路実現するための筋節や方法を知ること、今何をすべきなのか、何を参考にオープンキャンパスに参加すればいいのかを考えさせ、今後、具体的な学校選びができるよう進めたい。</li> <li>向陽ゼミにおいてはより多くの生徒が参加するよう、他の先生方に協力をして頂きながら開講していく。また、推薦受験を選択する生徒が多い中、一般進抜者向けの対策も講じていく必要がある。GTEC、及びスタディ・サポートの実施に関して、全員実施の意義や代替案について見直ししていく。</li> <li>PTA懇談会と同日に保護者向け進路説明会をするかという点も含め、渉外部と協議していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1, 2, 3年生のそれぞれの話はしっかりと聞いていた。授業の話と共通するが、進路も調べていこうに変わっているものかと思う。特にオープンキャンパスで学校見て実際に何かもあるのじつくりと考えてほしい。オープンキャンパスの影響は大きい。目標を決めるのであれば、2年生のオープンキャンパスの利用が有効なのではないかと思う。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育祭やマラソン大会の給水支援、正門前の花植えなどの活動が引き続き求められている。また生徒会活動・部活動等を支援する活動を通じて本校の教育活動が大きく支えられている。これらの活動を役員以外の方へ広げていくことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者参加に基づく地域に開かれた学校づくりの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本部役員・各委員会委員長と担当教員との連絡・協議を密にする。これにより、生徒理解を深めた、学校の実情に基づく取組ができるよう本部・各委員会の計画立案とその実行に関わっていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本部・各委員会の計画立案に基づき、各担当が組織的に関わることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Covid-19蔓延に対する政府・県教委からの通達により、今年度予定されていた多くの行事が中止となった。そのような中、大学・専門学校見学会(城西大学、呉竹医療専門学校)、朝の挨拶運動、正門花植え、広報誌発行は実施することが出来た。広報誌は行事の少なから記事が少なく苦慮した。PTA親睦スポーツ大会は、教員の負担軽減(働き方改革の一環として)のため来年度以降は中止の方向とされている。</li> <li>理事・役員どうしの連携は、電話やメール等によって行われ、連絡体制はかろうじて維持されている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>1, 2学年の保護者にとって、例年の行事を経験することが出来ず、来年度の運営が引き続き心配である。大前提として、新入生の保護者の中から役員を引き受けてくれる方を選出することが難しいという現実がある。まずは役員の確保を第一の課題とし、経験のある現三年生の役員から現1, 2年、新入生の保護者への引継ぎをいかにして行うかが二つ目の課題となる。</li> <li>その方策としては、電話・メール・ラインなどを駆使することが主とならざるを得ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA行事も引継ぎができない悩みを持っている。制服のリユースのことからバザーのことを考えている。検討が必要だが、学校と協力してきたいというと思う。</li> </ul>